

米山記念館見学と墓参

米山奨学委員会

委員 吉田悦治 (大阪大淀RC)

日時 2011年9月23日

場所 米山梅吉記念館

参加者 武島、田中、吉田、榊原、福田、西邨、
近藤、磯田 (第2660地区米山委員)

9月23日、台風12号を追っかける様に上記地区委員8名で米山梅吉記念館見学と墓参にまいりました。沼津市新幹線三島駅よりタクシーで「長泉町の米山記念館に」と言えばタクシーの運転手も心得ており20分位で到着しました。

事務局の挨拶をも済ませ、早速2階の展示会で市川学芸員が、皆の耳を惹きつけて離さない素晴らしい名調子で米山翁の生い立ちと活躍ぶりを説明してくれました。また次の部屋には、米山氏の沢山の著書、掛け軸、生活用品などが展示され、別な室にはロータリー (RI) の資料と写真、それに日本のロータリーの歴史の資料が沢山展示され、大きな銅板に日本歴代地区ガバナーの名が彫られていました。

記念館の庭には、ビチャイ・ラタクルRI会長がここを訪れた時の記念植樹と記念碑、入り口の横には、法隆寺の夢殿をかたどったともいわれる六角形の旧記念館があり、側には、ポール・ハリスが日本を訪問した時、帝国ホテルに記念植樹した月桂樹の孫に当たる木が植えてありました。その後、記念館近くにある墓地に参るのですが、米山翁の石碑は実に質素で、戒名ではなく、正面には梅吉氏作の俳句が彫ってありました。

『いさかいも なき漫々の 青田かな』



記念館、墓地のまわりは、長泉町と云うより米山姓の付く所がかなりあり、米山村と言える程であり、墓参を終えて始めて、私達にとって伝説の人であった米山翁が偉大なる身近なロータリーの大先輩になりました。

さて、日本のロータリーには米山を冠名にした2つの組織があります。それは、米山記念奨学会と、米山梅吉記念館です。奨学会は全日本ロータリーがかかわる巨大財団で、在日留学生への育英事業を目的とする文部科学省の認可の組織です。

一方、記念館は日本ロータリーの創始者、米山梅吉翁を記念し、ロータリー精神の普及を図る目的で、RI第2620地区 (静岡・山梨) の静岡東部11ロータリークラブが主になって、昭和44 (1969) 年、静岡県教育委員会の許可で設立された財団で、財源も運営も全く異なる組織です。頭の痛いのは財政問題です。私達が到着した時も理事長自ら、台風の後片付けをしておられ、館の屋根が嵐の影響で剥がれ落ちていました。現在、記念館を維持するために年間1,400万円ほどが必要です。これに対して収入は全てロータリーアンからの募金です。RI第2620地区から、地区援助賃金を頂き、さらにRI第2590地区、RI第2780地区、米山記念奨学会から主な補助をうけております。入館料のかわりにとスマイルボックスを置いてありますので、ご協力をお願いいたします。